成田市自然観察会(第 3 回)

冬 鳥 観 察 会

中村高士(富里市)

日　時：2019 年 12 月 15 日(日)9 時 30 分～12 時　天候：晴れ
場　所：坂田ヶ池総合公園(成田市)
参加者：20 名（大人 15 名子ども 5 名）成田市環境計画課 3 名
担当指導員：坂本文雄、松川裕、坂上津留美、谷優、伊藤道男、中村高士

朝9時、人もまばらな駐車場脇、参加者を待つ先輩指導員達が**エナガを**観察していた。ここ成田山から印西市方面に車で 15 分ほどにある、池がメインの総合公園が、成田市主催の冬鳥観察会の舞台。親子連れでの当日参加者も加わり賑やかになる。坂本さん作成の「野鳥ミニ図鑑60種」を全員に配布し、松川さん持参の小型双眼鏡を貸し出し 使用法を説明する。9 時半になり、坂本・中村(谷)と松川・坂上の 2 班に分かれ出発。

池のほとりで**マガモ**と**ホシハジロ**が休んでいた。お子さんにクイズ形式で、冬は何故鳥が多いのかを説明しながら丘の上に。円形の石畳広場で**ヤマガラ**の声を聴き姿を探す。昔、**ヤマガラ**が神社でおみくじを引く芸で人気だったが、あれはおみくじに好物の麻の実を入れて訓練したんだよとの謎解き解説あり。**メジロ**の声を聴きながら、満開のツバキに。花びらの下部に、蜜を吸いに来た**メジロ**が止まった爪の跡があると紹介され、受粉を手伝う鳥の生態に感心する。池の大きな浮橋に着く。どこを見ても水鳥だらけで解説者は大忙し。*オスとメスの毛色の違い、*一列や円形になって水面の餌を濾しとる**ハシビロガモ**の生態、*潜って餌を獲る**ホシハジロ**や**オオバン**と潜らない**マガモ**や**カルガモ**などの　違い、*カモ類の陽を受けて青や緑に輝く翼後部の翼鏡(ヨクキョウ)は仲間を見分ける役目をしていること、などが紹介される。一同興味津々で水面に散らばる青・緑・茶・白の　動く宝石のような水鳥を双眼鏡で覗く。誰かが太ったマガモがいると指さすと、あれは人間が改良したアヒルだよと説明され驚く。浮橋を出た林では、**ハシブトガラス**の群れが騒いでいる。きっと猛禽類がいるよと言われ空を見ると、**トビ**が旋回して来た。**ツグミ**の声を聴いて芝生の広場に出る。木の先端に尾がM字の**カワラヒワ**がいて、望遠鏡を覗く子ども達から歓声が上がる。集合場所に戻り、振り返りの最中、近くの電柱に**ノスリ**が舞い降りる。急遽観察会再開。皆で猛禽の横顔を目に焼き付けた。

参加者からは、「水鳥がきれいで驚いた」、「鳥の生態がわかってうれしかった」、「自然に触れ合えて楽しかった、また開催して欲しい」などの感想が述べられ、市の代表から、「これからも自然に親しみ、自然保護の心を育てて欲しい」との挨拶で締めくくられた。

ツバキの花にはメジロの爪跡が

アッあの鳥だ ミニ図鑑で確認